

社会資本総合整備計画 防災・安全交付金

令和04年01月25日

計画の名称	亀山駅周辺のにぎわいの再生（防災・安全）												
計画の期間	平成30年度～令和04年度（5年間）										重点配分対象の該当	○	
交付対象	亀山市												
計画の目標	<p>亀山駅周辺地区は、市の玄関口としてにぎわってきたが、近年は商業機能の低下や空き家の増加等が顕著となっている。</p> <p>市の玄関口である亀山駅周辺を再生することは、本市のにぎわいの創出や都市価値の向上のためにも必要であり、平成24年には「亀山駅周辺地区まちづくり協議会」も設立され、地域、事業者、行政が一体となった取り組みが積極的に行われ、再生に向けた熟度も高まっている。</p> <p>このような中、市街地再開発事業による都市機能の向上や交流人口の増加、公共交通の拠点である駅周辺の利便性及び安全性の確保等を地域住民とともに推進し、安全で魅力ある中心的市街地の再生を目指す。</p>												
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	4,568	A	4,568	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C／（A+B+C+D）	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値 (H27当初)	中間目標値	最終目標値 (R4末)
1	亀山駅周辺への自動車の進入台数（12時間交通量）を1,769台（H27）から2,500台（R4）に増加 亀山駅周辺へ進入する自動車交通量を測定する。	1769台	台	2500台
2	亀山駅周辺における旅客乗車人員（1日平均）を2,084人（H27）から2100人（R4）に増加 亀山駅における1日平均旅客乗車人員を調査する	2084人	人	2100人
3	歩行空間のバリアフリー化対策割合を0%（H27）から100%（R4）に増加 交付対象事業の内、バリアフリー化の必要面積の内、評価時点までのバリアフリー化対策実施面積の割合を算出する。 バリアフリー化対策割合＝バリアフリー化対策実施面積／バリアフリー化必要面積	0%	%	100%

備考等	個別施設計画を含む	－	国土強靱化を含む	－	定住自立圏を含む	－	連携中枢都市圏を含む	－	流域水循環計画を含む	－	地域再生計画を含む	－
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---

A 基幹事業

基幹事業（大）	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況							
												H30	H31	R02	R03	R04										
一体的に実施することにより期待される効果																										
備考																										
市街地整備事業	A13-001	市街地	一般	亀山市	間接	(仮称) 亀山駅周辺2ブロック地区市街地再開発組合	-	-	亀山駅周辺2ブロック地区第一種市街地再開発事業	商業、住宅、駐車場等 A=1.2ha	亀山市	■	■	■	■	■	1,990	1.093	-							
										小計																
道路事業	A01-002	街路	一般	亀山市	間接	(仮称) 亀山駅周辺2ブロック地区市街地再開発組合	市町村	改築	亀山駅周辺2ブロック地区(都) 亀山駅前線外1線	改築 バリアフリー化 A=1.2ha	亀山市	■	■	■	■	■	2,578		-							
										小計																
										合計																